

2025年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園
枝光会附属幼稚園

当園ではこの度、2025年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

カトリックの精神に基づきながら、子ども達に暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に適した保育を行いたいと考えています。

その為に常に家庭、特に母親との連絡を密にし、神様を愛し、他人をも愛する事の出来る心を養い、自立心や正しい躰を身につけさせたいと願っています。

又、自然とふれあう機会を持つことによって、全てのものが持つ命の大切さを教えると共に、情操教育に重点を置き、遊びの中から明るく素直な思いやりのある幼児に育てることを目的にしています。

II. 今年度の重点目標

- 教育課程の編成
- 教員間の連携と資質向上
- 指導と関わり
- 環境構成と安全への配慮
- カトリックの園として

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況
1	教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none">●幼児の年齢や発達、特性に応じた教育課程を編成し、それをもとに保育の計画を立てる●園の教育方針・園長の考えについて、教職員と定期的に話し合い、理解を深める	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none">●出来ない経験より出来た経験が増えるよう、クラスの雰囲気や様子によって保育内容を心がけることができた。子どもの発達、年齢や特性を考慮し、日々の保育を行い、学期末に成長した部分、さらに期待できる部分、指導が必要な部分を教員間で丁寧に話し合った。●週一回、園長・副園長含め、全教員と意見交流を行ったことで、教育方針や他教員の考えを共有することができた。
2	教員間の連携と資質向上	<ul style="list-style-type: none">●仕事の手順をよく考え、能率よく行う。また、互いに保育を見せ合って検討し、評価・反省を考え、自分の保育の在り方や悩みについて他の教師や主任・園長・副園長と話し合う●教師らしい品位のある言葉・正しい日本語を用い、服装・髪型・身だしなみなど清潔感のあるものを心がける	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none">●複数担任制のため、保育後に各々の目で見えた子どもの関わり方、保育内容について話し合い、今後の保育に活かすことができた。対応など迷ったり困ったりした時には、園長・副園長に相談し、より良い策を見つけられるようにした。●子どもたちの見本となる存在であることを意識し、分かりやすく丁寧な言葉で伝えられるよう心がけた。身だしなみにも気をつけ、周囲が不快な思いをしないように意識した。

2025年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園
枝光会附属幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況
3	指導とかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ●全体を見つつ、死角になりがちな場所で活動しようとしている幼児についても、ある程度その活動の様子を推察する ●他のクラスや異年齢の幼児たちと関わる中で、特に指導上配慮を必要とする幼児については、園の教職員全体でよく話し合い、クラス・学年を超えて情報を共有し、共通理解をもって対応するようにする 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●クラス全体の様子や他の教員の配置を確認しながら、子どもがどこで何を遊んでいるのか、意識して見るようになってきた。 ●週一回の全教員との話し合いの時間を設けたことで、情報交換ができ、共通認識をもって子どもに対応することができ、縦割り保育で活かすことができた。
4	環境の構成と安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動は年齢や能力に対して危険ではないかなど、常に観察し、安全で清潔感のある環境を構成する ●異年齢児との関係を活かして、幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成している ●防犯防災のマニュアルを教職員で確認する 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安全に遊べるよう教員で話し合い、危険な遊びをしている場面の声がけ、補助をすることで、遊ぶことが可能なのか、また製作においてはハサミの使い方の説明など、保育中のルールを子どもたちに伝えた。 ●縦割り保育を通じて普段関わりのない子どもと過ごすことで新しい発見や学びにつながった。 ●様々な状況を考え、保育時間内で防災訓練を行った。防犯訓練は実際に警察に来てもらいアドバイスを受けた方が良かった。
5	カトリックの園として	<ul style="list-style-type: none"> ●カトリック園向けの研修会で学んだことを参考に、保育案に神様のことを幼児に伝える時間を習慣化する ●感謝や思いやり、ゆるしなど一日の保育の中での出来事を幼児と共に話し合う時間を作る ●幼児にわかりやすくやさしい歌詞の聖歌を教える 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カトリック園として神様に触れられる時間を作り、存在や意味を少しずつ理解できていると思う。 ●日々の生活の中で譲ること、ありがとう、ごめんなさい、といった言葉の大切さを伝え、優しい心を互いに分け合うことの大切さを伝えることができた。 ●昔ながらの難しい言葉の聖歌も、教員がその言葉の意味を教え、日本語の言葉の継承も大切なのではないかと感じた。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

2025年度「自己評価結果報告書」

学校法人 枝光学園
枝光会附属幼稚園

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員間の連携の充実	●経験の浅い教員が不安や悩みを一人で抱え込まずに安心して保育に取り組めるよう園長・副園長に相談しながら振り返りの機会を設け、悩みや課題を共有しやすい体制づくりを進める。
2	保護者への対応	●保護者との情報共有を大切に、家庭と園が同じ方向を向いて子どもを支えられるような関係づくりを継続していく。 ●子ども一人ひとりの育ちや特性に応じた関わりについて、教員間でさらに共有を深め、園全体で共通理解を持った保育を行うことで保護者への対応について違いが出ないようにする。
3	教育環境の整備	●教員自身が環境の一部を担っていることを自覚し、整理整頓を心がけ、収納方法を工夫して事故防止含め、安全で清潔感のある環境構成をしていく。
4	カトリックの園として	●普段の生活の中での出来事（感謝する心、頑張ったり我慢するなどの豊かな心、赦すことのできる心、生命の大切さ、遊びのルールなど）から神さまを身近に感じつつ、お祈りの時間にこだわらず、自分の言葉で子どもと共に祈ることができるようになる。

V. 学校関係者の評価

カトリックの精神が息づく暖かな雰囲気の中で、先生方が子どもたち一人ひとりに深い愛情を注いでくださったことで、子どもたちはあるがままの自分を最大限受け入れてもらえる安心感と愛される実感を得て、豊かな心と優しい気持ちを育むことができたと感じております。

充実した教育内容、先生方のあたたかくも的確なご指導、お祈りや聖歌をはじめとする神さまとの対話の時間。これらを通じて、子どもたちは、挨拶や礼儀、身なり、言葉遣いなどの人としての礎はもちろん、年齢に応じた基礎的な力の習得に加え、創造性や自主性、人への感謝や思いやりの心、さらには自ら内省する力をも育むことができました。先生方は、常に子どもの特性や課題、クラスの状況などを随時把握・共有し、園全体で連携をとりながら、子どもたちの個々の成長を促すご対応へとつなげてくださっていました。

また、保護者とのコミュニケーションの機会も多く持っていただき、園の方針を大切にしながらも時流に即すよう誠実に対応して下さったり、課題感を共有して下さったりと、保護者とのよりよい関係性の構築にも最大限努めて下さったと感じています。園行事や講演会など、子どもの成長を知る機会や学びの機会も多く、子どもとともに親も成長する機会を与えてくださいました。

こういった日々のきめ細やかなご配慮の数々が、親子ともに抱く園へのゆるぎない安心感、信頼感を醸成し、子どもたちの伸びやかな成長へとつながっていることと拝察し、心から感謝しております。

人としての礎を創る幼少期を、このような恵まれた保育環境の中で親子ともに安心して過ごさせて頂けましたことを、ならびに先生方の暖かな日々のご指導に、心より御礼申し上げます。

学校評価委員 小川 紗織（園児保護者）

学校評価委員 殿村 真理（園児保護者）

学校評価委員 米井 直美（園児保護者）